

# 授業は子どもと教師でつくるもの その土台を学んだ研究会での日々

京都府 京都市立高倉小学校校長 門田真澄 MONDEN MASUMI

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、門田校長が語る。

大切なのは  
教師として学びたい気持ち

のだろうかと不安でいっぱいでした。どんな授業をすればよいのか悩む私に八木校長はこう言われました。

振り返ると、私の教師としての転機は、八木佐喜子校長との出会いにあったのだと思います。教師になって12年目、赴任3つめの小学校で、八木校長から翌年に控えた近畿音楽教育研究大会での公開授業を任せられました。私は何度か音楽主任を務めていましたが、専門は算数で、音楽教育に造詣が深いわけではありませんでした。しかも、校内研究しか経験がなく、他校から大勢の教育関係者が参加される公開授業など出来る

「一生懸命やっていたれば、力は後から付いてきます。自分をもっと高めたい、学びたいという気持ちで研鑽を積むことが大切です。自分には大役だと思っても、そうした機会を与えられるだけの力があるから任せられているのです。背伸びをする必要も自分を卑下することはありません」

その言葉に、私は肩の荷が少し下りました。先生の紹介で、さっそく市の音楽教育研究会に入り、私なりの授業づくりが始まりました。



もんでん・ますみ 専門教科は算数。京都市立御所南小学校などを経て、京都市立高倉小学校に赴任。研究主任、教頭を務めた後、校長に就任。京都市算数教育研究会研究部長、国立教育政策研究所教育課程実施状況調査結果分析委員(算数科)も歴任。

- 1979 (昭和54)  
新採として  
京都市立椋原小学校  
に赴任
- 1984 (昭和59)  
京都市立松陽小学校  
に赴任。  
音楽主任を務める
- 1990 (平成2)  
京都市立龍池小学校  
(現御所南小学校に統合)  
に赴任。  
近畿音楽教育研究大会に  
向け音楽主任を務める



音楽の授業の様子

- 1995 (平成7)  
京都市立御所南小学校  
に赴任
- 2000 (平成12)  
京都市立桂坂小学校  
に赴任
- 2006 (平成18)  
京都市立高倉小学校  
に赴任。  
研究主任として  
「読解科」の  
立ち上げに尽力。  
2009年に教頭、  
2012年に校長に昇任

## 「知識・技能を教えるだけでなく 人間的成長を促すのが授業」



市全域から教師が集まる研究会での活動は、勉強の連続でした。より良い授業をつくるという1つの目標に向かって、皆で意見を出し合い、他校の授業を見に行き、新たな指導を授業で実践し、その成果を発表して、また意見を出し合う。当時研究会副会長を務めておられた八木校長や他の先生からもアドバイスをいただき、自分の視野がどんどん広がっていくのを感じました。

公開授業のテーマは「音楽をつく

る」でした。子どもが校内を歩いて、楽器だけでなく、身の回りのものを叩いたりこすったりして音を探し、それらを組み合わせる曲をつくるグループ活動です。

この授業づくりを通して、私の授業観は大きく変わりました。音楽の授業の目的は、上手に歌い、楽器を演奏するという音楽の技能を教えることだと思っていました。しかし、曲をつくる子どもの姿に、授業では自分の思いを豊かに表現する力も育

てられるのだと気がきました。

更に、授業は子どもと教師でつくるものだと感じました。私はグループ活動を音楽の授業で行うのは初めてで、子どもの発言を上手につなげたとは言い難いものでした。それでも、子どもが自分の意見を発表し、他の人の意見も尊重し、皆で協力して行った楽曲づくりは、子どもたちと私とでつくり上げた授業だと実感の持てるものでした。そして、人と人とかかわって物事を進めていくことは、思いやりの心を育む人権学習の場にもなると気付いたのでした。

授業は知識・技能を教えるだけの場ではなく、子どもと教師でつくり上げ、子どもの人間的成長を促す場——私は授業の可能性、そして研究の重要性を改めて実感しました。

**子どもと接する先生に  
元気で温かくいてほしい**

大会後、グループ活動を授業に取り入れ、また専門を追究したいと算数教育研究会に入ってから、この時の経験が生かされました。しかし、悩むこともよくありましたし、子育てをしていた時期でしたので、その大変さもありません。そんな

時、八木校長から、授業で改善した方が良い点や励ましの言葉など、よく声を掛けていただきました。子どもが熱を出した時には「今日は早く帰りなさい」と配慮していただいたこともあります。いつも声を掛けられていることは、自分を見てもらっている、大切にされていると感じ、頑張ろうと意欲が持てました。そして、校長として多くの難しい課題があったはずなのに、教職員の前では常に笑顔でおられました。

八木校長が退職された後、そのことを本人に伝えると、「教職員を大切にすれば、教職員は子どもたちを大切にしてください。教職員が安心して仕事に打ち込み、子どもと向き合える学校にしよう」と心掛けていました」と言われたのです。

それはそのまま、今の私の心掛けとなっております。校長1年目の昨年、「誰もが楽しいと思える学校に」、2年目の今年「笑顔とあいさつがあふれる学校に」を掲げました。教職員がいつも元気で温かい気持ちで子どもたちの前に立てるよう、温かな学級をつくることができよう、これからも学校づくりをしていきたいと思います。